

委員会報告 [広報]

広報委員会の活動と今後の方針



松坂 方士 JACR理事

弘前大学医学部附属病院

杉山 裕美 放射線影響研究所

片山 佳代子 神奈川県立がんセンター臨床研究所

田淵 健 東京都立駒込病院

阪口 昌彦 神奈川県立がんセンター臨床研究所

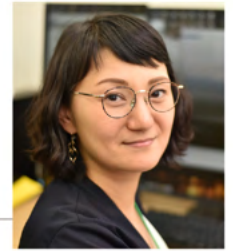
広報委員会では各都道府県がん登録室やがん登録を利用した研究の紹介、がん対策の今後に関する提言などをご寄稿いただき、ニュースレターを通して会員の皆さまのがん登録運営に役に立つ情報を発信してきました。また、協議会ホームページの内容を見直し、がん対策の基盤であるがん登録の重要性をアピールすることにも努めています。

がん登録等の推進に関する法律の施行に伴い、都道府県は精度向上の一步先であるデータ利用の整備への対応が必要です。また、当協議会が進めているJ-CIP事業に代表されるように、がん登録データはがん対策のさまざまな場面で重要な鍵となります。広報委員会ではこれらについて情報提供していくとともに、ニュースレターでデータの解釈に役立つ統計の知識などを連載して実務者や行政担当者が統計資料への理解を深めることをお手伝いすることで、当協議会の活動が今後の都道府県のがん対策にさらに貢献できるようにしたいと考えています。

また、先日の臨時総会で新しく会員資格が認められた病院（院内がん登録）についても、協議会の内外からニュースレターへのご寄稿をいただきながら情報交換を推進していきたいと考えています。将来的には、広報委員会が都道府県の全国がん登録実務者と院内がん登録実務者の橋渡しをしつつ、双方に必要なデータ集計と報告書等への活用方法の紹介、登録実務に必要な知識の周知などの役割をニュースレターが担っていければと期待しています。また、これまでニュースレターは年2回の発行としてきましたが、院内がん登録はこれまで協議会が経験したことのない規模の情報提供相手であり、タイムリーな対応が必要なことから、メールマガジン形式などによる情報提供も検討しています。

広報委員会ではSkypeを利用して適宜意見を交換しています。会員の皆さまから「このような情報が欲しい」というご意見をいただければ、ぜひ検討させていただきたいと考えております。

委員会報告 [国際交流]



伊藤 ゆり JACR専門委員

大阪医科大学

松坂 方士 弘前大学医学部附属病院

中田 佳世 大阪国際がんセンター

先日開設されたJ-CIP WebsiteのGlobalページでは、サバイバー生存率のインフォグラフィクスや、がん生存率の国際共同研究CONCORD studyや国際がん小児がん罹患(IICC)など世界のがん統計についての解説文が掲載されています。また、これまでの国際がん登録学会の参加レポートも掲載されていますので、ぜひご覧下さい。

<http://jacr.info/j-cip/global/index.html>



2019年3月25~29日、Global Initiative for Cancer Registry Development (GICR)の活動の一環で、大阪国際がんセンターがん対策センターの中田佳世氏、大川純代氏、秋田県総合保健事業団疾病登録室の佐藤雅子氏が、中国National Cancer CenterのRongshou Zheng氏とともにベトナムのハノイがん登録室を訪問し、がん登録の運営や登録実務、データの利活用についての講義や意見交換を行いました。

2019年6月9~13日の日程で第41回国際がん登録学会(IACR)北米中央登録室協議会の年次総会(NAACCR)と合同で開催されます。日本からも数演題が口頭・ポスター発表に選ばれています。北米開催の際は演題数も多く、がん対策や学術的に価値の高い多くの話題を聞くことができますので、参加者による次号以降のレポートをご期待下さい。

登録実務に関連するお知らせとしては、ICD-O-3.2の更新が終わり、IACRのウェブで公開されました。2020年からの使用が推奨されています。ご参照下さい。

<https://bit.ly/2W9kw30>

また、中田佳世先生が監修されたトロント小児がんステージガイドラインの日本語訳が公開されています。

<https://bit.ly/2VkubH5>